



地 理

問題は、次のページから書かれていて、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの3題ある。

解答は、問題ごとに与えられた指示にしたがって、答案紙の所定の解答欄に書き入れよ。

地理 問題 I

自然環境と人間生活との関係について、次の問1～3に答えなさい。

問1 次の図1に関して、下の(1)～(3)に答えなさい。

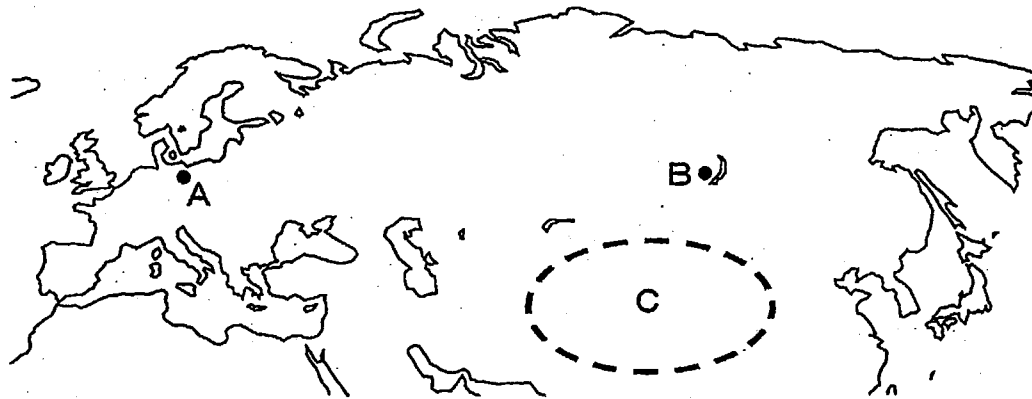


図1

- (1) 図1の都市Aと都市Bは、ほぼ同緯度にあるにもかかわらず、ケッペンの気候区分では異なる気候区に位置している。都市Aと都市Bにおける一年間の気温の特徴を、表1に即して説明したうえで、両都市における気温の特徴の違いが生じている理由を、あわせて200字以内で説明しなさい。

表1

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
都市A	1.2	2.1	5.2	10.2	14.6	18.0	20.1	19.7	15.3	10.2	5.4	2.3
都市B	-17.6	-14.0	-5.5	3.6	10.4	16.4	19.0	16.5	9.5	2.0	-7.9	-15.3

理科年表により作成。気温の単位は℃で、1991～2020年の平年値。

- (2) 図1のCの範囲では、中緯度であるにもかかわらず、ツンドラ(ET)気候が比較的広く分布する。その理由の1つとして考えられる条件を説明しなさい。

- (3) ケッペンの気候区分を、今後も世界の気候分布図に適用しようとする場合、それぞれの気候区の範囲が少しずつ変化していくことが想定される。その変化の要因として考えられるものを1つ挙げて説明しなさい。

問 2 農耕を基盤とする生活様式について、下の(1)～(2)に答えなさい。

- (1) 水稻の栽培に有利となる自然条件について、気候および地形の観点から説明しなさい。
- (2) 上記の(1)の条件が得られない場合、その欠点を克服するために、どのような農業技術が必要とされるかについて、気候および地形の観点から説明しなさい。

問 3 次の図 2 は、日本の中国山地のある地域の地形図である。この図に関して、下の(1)～(3)に答えなさい。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

国土地理院の資料により作成。

図 2

- (1) 図中の D の集落について、地形条件からみた立地上の利点を説明しなさい。
- (2) 図中の E と F の集落について、図に示された地名がそれぞれ付けられた理由として考えられるものを、地形条件にもとづいて説明しなさい。
- (3) 図中の丘陵地における、植生を含めた土地利用の特徴を説明しなさい。

地理 問題Ⅱ

経済と環境に関する次の問1～4に答えなさい。

問1 次の表1のA～Cは、カナダ、ナミビア、マレーシアにおける土地利用の状況を示したものである。表中の数値(%)は、各国の土地面積に占める農地(耕地・樹園地および牧場・牧草地)と森林等の面積の割合を示している。A～Cに該当する国として最も適当な国名をそれぞれ答えなさい。

表1

	耕地・樹園地	牧場・牧草地	森林	その他
A	4.4	2.1	39.5	54.0
B	1.0	46.2	7.9	44.9
C	25.2	0.9	57.9	16.0

FAOSTATにより作成。統計年次は2022年。

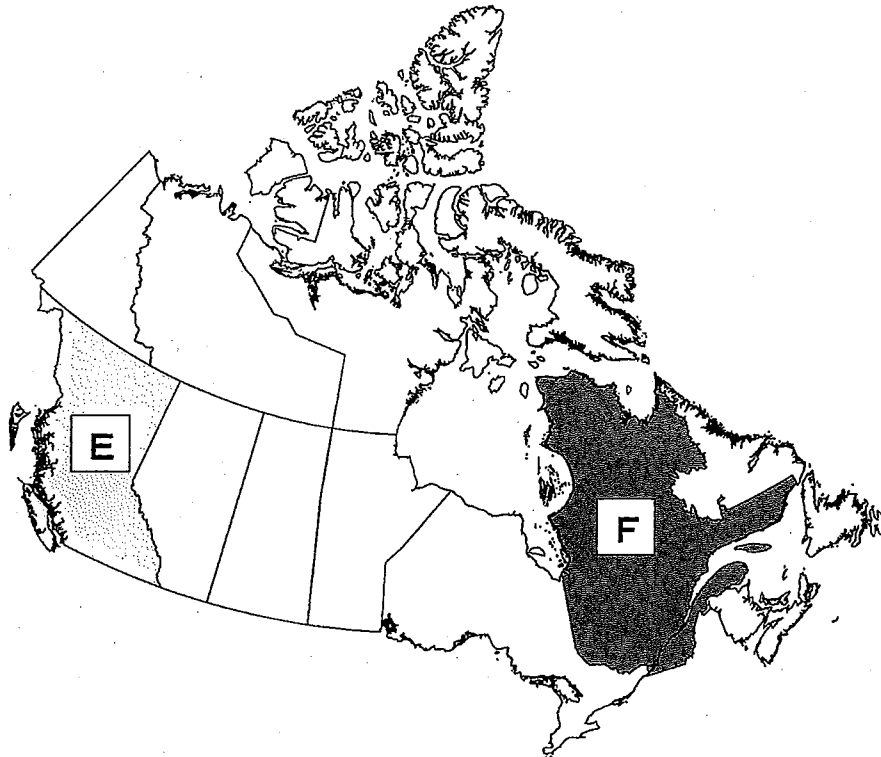
問2 カナダの経済と地域について、下の(1)～(3)に答えなさい。

(1) 2020年にNAFTAに代わって発効した貿易協定の名称を答えなさい。また、同協定で強化された「輸入製品の関税に関わる要件」の名称を答えなさい。

(2) カナダ第3の都市バンクーバーでは、ICT関連企業が数多く立地している。同地域におけるICT産業の発展について、その地理的優位性の観点から説明しなさい。その際、以下の[]内の語をすべて用いて述べなさい。用いた箇所には下線を引くこと。

[時差, シリコンバレー, 生活費]

(3) 次ページの図1におけるEとFの州では、使用言語別人口の比率が大きく異なる。その背景を説明しなさい。



Statistics Canada Census 2021 により作成。

図 1

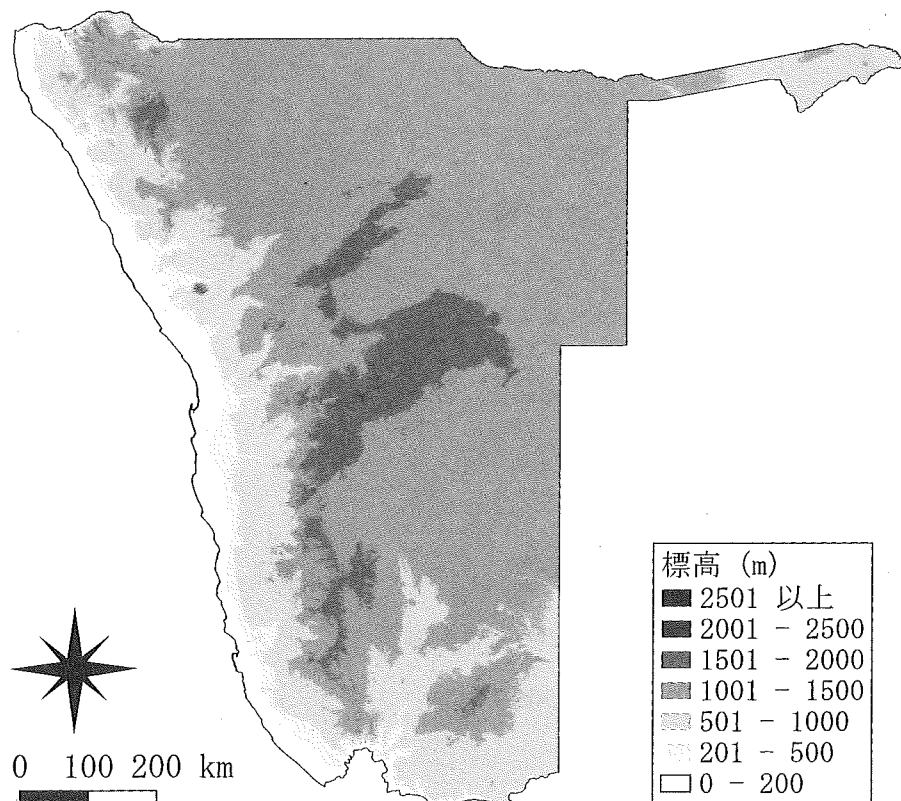
問 3 ナミビアの資源と環境について、下の(1)～(3)に答えなさい。

- (1) ナミビアの鉱業に関する次の文章を読んで、ア～エに該当する語句として最も適当なものをそれぞれ答えなさい。

ナミビアでは、鉱業が外貨収入の多くを生み出す重要な産業となっている。主な生産物として挙げられるのは、(ア)、(イ)、金、銅などである。とりわけ(ア)については、世界全体の年間生産量の約12%を占めており、同国が世界有数の生産国となっている。その主な産地は、中西部に分布している。また、(イ)も外貨を獲得する上での重要な資源となっている。ナミビアの(イ)は、もともと現在の南アフリカ共和国に位置する鉱脈から(ウ)や侵食を通じて流れ出したものである。そして、それが(エ)川を介して運搬され、下流部やナミビア沿岸部の海底に堆積した。そのため、(イ)の多くは、海域や沿岸部で採掘される。

(2) アフリカの資源国では、鉱山資源の豊富さが経済発展の足かせとなりうることが指摘されている。その理由を説明しなさい。

(3) 次の図2は、ナミビアの地形を示したものである。西岸部に広がる砂漠の形成の仕組みを説明しなさい。また、同様の仕組みで形成される他国の砂漠として最も適当なものを答えなさい。



ACACIA の資料により作成。

図2

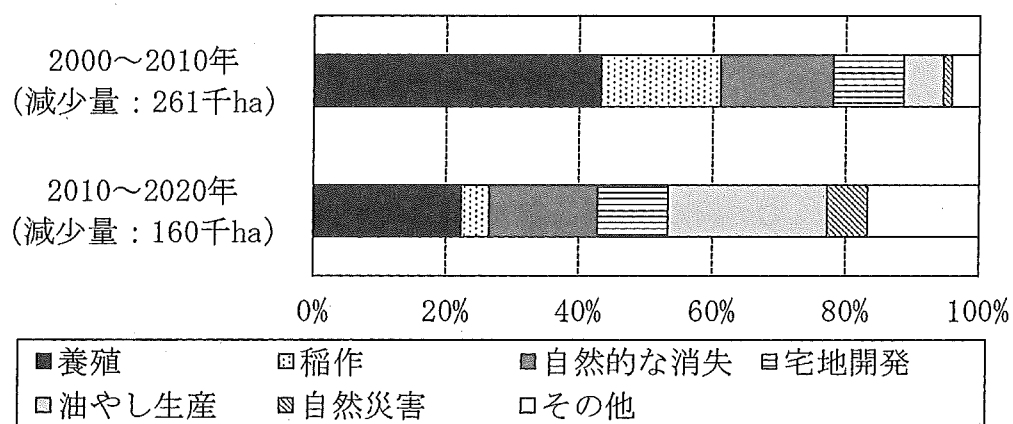
問4 マレーシアの経済政策と森林破壊について、下の(1)～(3)に答えなさい。

(1) 1980年代にマレーシアで打ち出された工業化政策の名称として最も適当なものを答えなさい。

- (2) 1990年に東南アジアの三国間で合意された地域経済協力計画に関する次の文章を読んで、カ～コに該当する語句として最も適当なものをそれぞれ答えなさい。

1990年代の東南アジアでは、経済のグローバル化を補完する様々なレベルの地域経済圏構想が浮上した。(カ)は、シンガポールを軸に、マレーシアの(キ)地域とインドネシアの(ク)島にまたがる局地的な経済圏の構想である。都市国家のシンガポールには、水・土地・(ケ)といった資源面での制約があり、国内開発の限界が生じていた。この制約を解決するための方策として、隣国を包摂した開発戦略が浮上した。同構想の中で(キ)は(コ)的な工業を担う地域に位置づけられた。そのため、資本・技術集約型産業への移行を目指す当時のマレーシア政府の開発政策とは相反する側面もあった。

- (3) 次の図3は、東南・南アジアにおけるマングローブ林の減少量とその要因となりうるものの内訳を示したものである。この図の内容を踏まえて、東南・南アジアにおける過去20年のマングローブ林の減少とその要因の変化について説明しなさい。



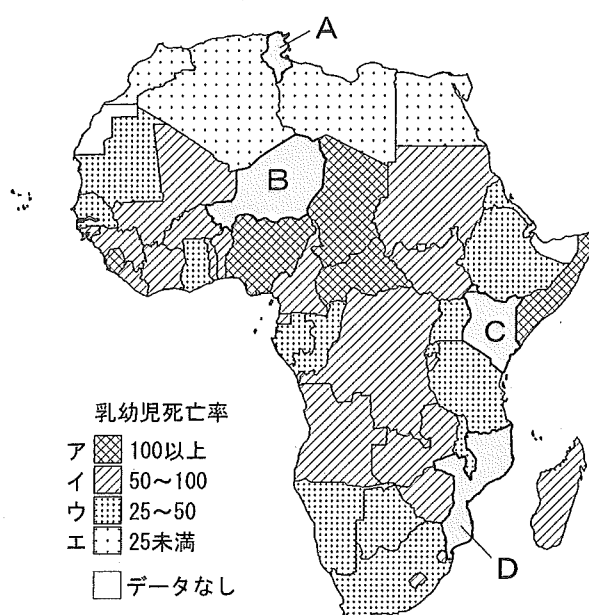
THE WORLD'S MANGROVES 2000-2020 により作成。

図3

地理 問題Ⅲ

地球的課題に関する次の問1～3に答えなさい。

問1 次の図1は、アフリカにおける国・地域の乳幼児死亡率(出生数1,000人に対する5歳未満死亡数)の階級区分図であり、A～Dの国にはそれぞれア～エのいずれかの階級が該当する。図1を見て、下の(1)と(2)の問いに答えなさい。

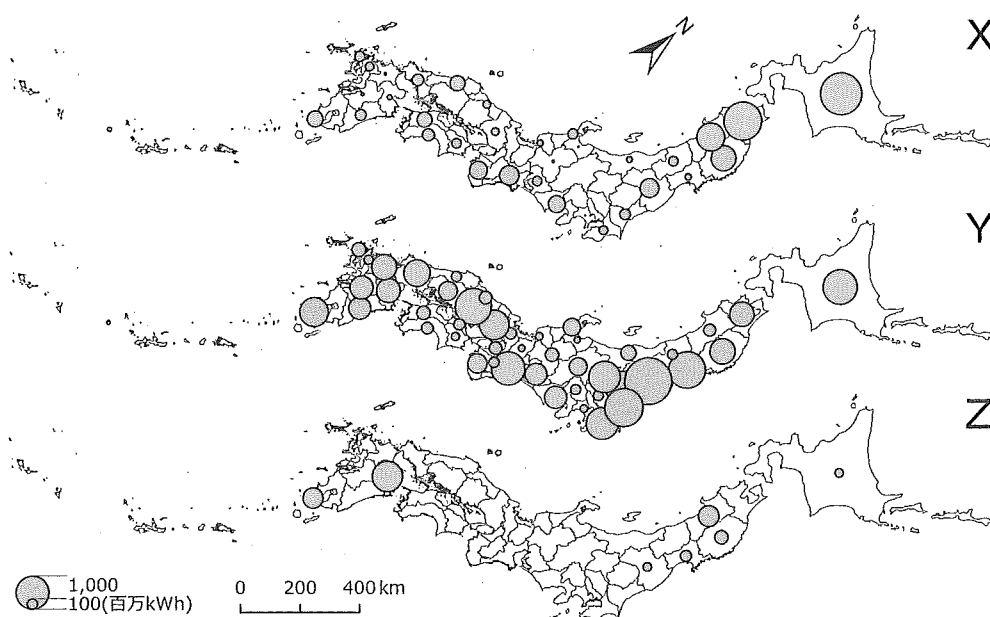


注：統計年次は2021年、『世界子供白書』により作成。

図1

- (1) 図1中のA～Cの国に該当する階級として最も適当なものを、それぞれア～エのうちから一つずつ選び、記号で答えなさい。
- (2) 乳幼児死亡率を下げるために具体的にどのような取り組みが必要と考えられるか、また、それが乳幼児死亡率の低下にどのようにつながるのか、主なものを二つ挙げて説明しなさい。

問 2 地球温暖化対策として、化石燃料によらない発電が推進されている。次の図 2 中の X～Z は、日本における太陽光発電、地熱発電、風力発電のいずれかの都道府県別年間発電実績(電力量)を示したものである。図 2 に関して、下の(1)～(3)の問いに答えなさい。



注：統計年次は 2023 年度，資源エネルギー庁の資料により作成。

図 2

- (1) 図 1 中の X・Y のそれぞれに該当する発電方式を答えなさい。
- (2) 図 1 中の X～Z の分布の特徴を，それぞれ発電施設が立地する地域の条件に触れながら述べなさい。
- (3) 太陽光発電や風力発電は，一般に，発電量を一定に保ったり自由に出力を変えたりすることが得意ではない。このことを克服するために，日本や外国では，実際にどのような対策が講じられているか，具体的に二つ例を挙げて説明しなさい。

問 3 国際海運や国際航空の分野における温室効果ガスの排出削減は、京都議定書において国際海事機関(IMO)や国際民間航空機関(ICAO)といった国際機関を通じて検討されなければならないとされ、パリ協定では義務化されなかった。なぜ国ごとに削減目標が設定されなかったと考えられるか、国際海運のケースについて、船舶の位置と動きに関するリアルタイム情報を提供する、下のウェブサイト画像(部分)を参考にして述べなさい。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

注：Marine Traffic による(一部改変)。地図中の矢印は船舶の位置を表す。二重丸の付いた船舶の情報が右側のウィンドウに示されている。この船はパナマ船籍のコンテナ船で、津軽海峡に差しかけようとしている。今回の航海では、韓国のプサン新港からアメリカ合衆国のロングビーチ港に向かう予定である。

図 3